

「情報モラル」の育成と定着を目指して

情報 情報C 普通科・総合学科・第1学年

石川県立輪島高等学校・教諭

1 事例の概要

多くの若者が、携帯電話やインターネットによるトラブルに巻き込まれているが、「情報モラル教育」は現在全ての学校で取り組まなければならない緊急課題であるともいえる。実際、集会やLHRなどでは概論的になりがちであるが、教科「情報」ではコンピュータやケイタイのシステムに留まらず、様々なサイトの仕組みや運営方法などから社会の動き、手口や手法の具体的な内容までトータルに指導できるといえる。特に「情報C」は『情報社会に参画する態度』を育成するウエートが高い科目であり、授業を工夫し積極的に生徒に関わるチャンスがある。

ここでは、個人情報の学習を進める中で、インターネットにおける、情報漏洩による被害例などを取り上げるとともに、インターネットの匿名性の問題点や、違法サイト・有害サイトの存在や対応策を理解させる。

また、知的財産権の種類と内容や著作権・肖像権などの侵害例についても学習を進める。

2 実践の内容

(1)単元の見どころ

- ・情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。
- ・この単元では個人情報の意味を理解する中で個人情報漏えいによる被害例などを取り上げ、インターネットの匿名性と違法サイト・有害サイトの存在を理解する。
- ・知的財産権の種類と内容について理解するとともに著作権や肖像権などの侵害例も知る。

(2)指導上の工夫点

- ①マスコミを騒がすインターネットが絡んだ事件例を新聞などで調べる活動を通して問題意識を持たせた後、ビデオ教材でその手口などを確認できるような流れをとった。

生徒指導用に作成されているため、興味・関心を引き出しやすい構成になっているので、生徒の理解がスムーズであった。

- ②プロフサイトやコミュニティサイトなど最新の事例を取り上げながら、その危険性を認識出来るようにした。

生徒が様々なサイトを閲覧している場合が多く、入会などの登録方法に加え、実際に表示されている情報が、悪用され流用される危険性があり、事後の怖さを再認識していた。

3 指導の実際

時間	学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評 価 規 準
15	展開 2 「インターネットの匿名性」	・教科書 p102 ～ p103 を読み、前時のレポートとの関連性を理解する。	・関連法令で何をどのように扱うかを説明した後、インターネットの匿名性のメリット・デメリットを発問し生徒の理解を促す。	関連法令やフィルタリングについて理解している。 【知識・理解】
10	展開 3 学習ノートによる振り返り	・学習ノートに取り組みながら、重要な点が自分のものとなり定着するまで理解する。	・机間指導をしながら、それぞれの生徒の理解度や取り組む姿勢を確認する。	メリット・デメリットをまとめることができる。 【思考・判断】

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

高校に入学すると95%以上の所有率のある携帯電話は、無意識に生活の一部となり、逆に振り回されている傾向があるといえる。本校では「情報C」を1年次に2単位配置しているが、「情報社会に参画する態度」の育成において、入学した早い段階で「情報モラルとは何か」「なぜ必要なのか」「なぜそうあるべきなのか」を学習している。その後、具体的な仕組みやシステムなど知識の理解へと進めていくという流れは、生徒の反応もよいと感じている。

実施後の感想からも、「フィッシングの実際」や「ワンクリック詐欺の手口」、「サイバー警察の存在」や「被害にあった時、どうすればよいか」などを学ぶことができたと答えている。早い段階での情報モラル教育の必要性が明らかになった。

(2) 課題

いろいろな調査によるとプロフィールサイトへの書き込みや、Eメールにまつわるトラブルが現実には発生している。情報モラルを知識としては知っているが、モラルある行動ができない生徒もいるのではないだろうか。

また、本校では普通教科「情報」は1年次で修了し、以後は教科として学ぶことがない。必修履修科目として「情報活用の実践力」「情報の科学的理解」「情報社会に参画する態度」の育成を定着させる必要があるが、2年次以降も全ての教科活動、特別活動を通じて「情報モラル教育」を継続的に行うことが不可欠であり、システム作りが今後の課題である。

また、高校の学習活動は自分の考えを表現する場が少ない傾向があるが、本校では課題解決学習の「ポスターセッション」を秋に1年生全員が実施している。コミュニケーション能力の育成が叫ばれて久しいが、プレゼンテーション活動の有効性は明らかである。発表活動を通して、キャリア教育において生徒が必要と示している「人間関係調整能力」の向上も教科の特徴として取り組む必要があろう。

D-1 生徒の振り返り